

恋の歌セレクション

百人一首から選んだ恋の歌10首

3番

あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

【現代語訳】山鳥の長く垂れた尾のように長い長い夜をひとりで寝ることだろうか
山鳥の長く垂れた尾に、ひとりで過ごす長い夜の寂しさを重ねた恋の歌。

9番

花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに

【現代語訳】花の色はむなしく色あせてしまった。長雨が降り続く間に、私の容色も衰えてしまった
花の色あせと自身の容色の衰えを重ねた、小野小町の代表的な恋の嘆きの歌。

13番

つくばねの峰より落つるみな川の恋ぞつもりて淵となりぬる

【現代語訳】筑波山の峰から流れ落ちるみなの川のように、恋心が積もり積もって深い淵となった
筑波山から流れる川のように、恋心が積もり積もって深い淵となった。

17番

ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは

【現代語訳】神代の昔にも聞いたことがない。竜田川が紅葉で真紅に水をくくり染めにすると
神代にも聞いたことがない、竜田川が紅葉で紅に染まる壮大な光景を詠む。

25番

名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな

【現代語訳】その名のとおりなら、逢坂山のさねかづらを手繰るように人知れず逢いに行く方法があればなあ
逢坂山のさねかづらを手繰るように、人知れず恋人に逢いに行きたい。

40番

忍ぶれど色に出でにけり我が恋はものや思ふと人の問ふまで

【現代語訳】隠していたけれど顔に出してしまったなあ、私の恋は。物思いしているのかと人が尋ねるほどに
隠していたはずの恋心が顔色に出てしまい、人に気づかれてしまった。

43番

逢ひ見てののちの心にくらぶれば昔はものを思はざりけり

【現代語訳】逢って恋を知った今の心に比べれば、以前は物思いなどしていなかったのだなあ
逢って恋を知った今に比べれば、以前の悩みなど悩みではなかった。

50番

君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな

【現代語訳】あなたのためなら惜しくなかった命さえ、逢えた今は長く生きたいと思うことだ
あなたのためなら惜しくなかった命が、逢えた今は長く生きたいと思う。

77番

瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

【現代語訳】川の瀬が速いので岩にせき止められる滝川のように、別れても最後にはきっと逢おうと思う
岩で分かれても下流で再び合う川のように、必ずまた逢おうという決意。

89番

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

【現代語訳】我が命よ、絶えるなら絶えてしまえ。生き永らえれば忍ぶ心が弱ってしまうから
命よ絶えるなら絶えてしまえ。生き永らえれば忍ぶ心が弱ってしまうから。